

平成28年度 上越市総合学習部 活動報告

部長 志村 正幸

1 研究主題

「これからの時代に求められる資質・能力と総合的な学習の時間の在り方を探る」

2 研究の概要

- 6月 3日（金）第1回小委員会・平成28年度の組織作り、研究テーマと内容の協議
- 11月 4日（金）第2回小委員会・総合学習部会の運営計画についての検討
- 11月11日（金）上越市学校教育研究会総合学習部会の開催・講演会、アンケートの実施

3 研究の実際

- (1) 日 時 平成28年11月11日（金） 14:30～16:30 ※参加者 34名
(2) 講演会 演 題「探究的な学習プロセスの作り方～会議ファシリテーターからの応用～」

講 師 有限会社F&C ヨシザキ 会議ファシリテーター 吉崎 利生 様

「会議テーマづくりを考察する」（以下、講演要旨の抜粋）

講演の最初に「最近、あなたが参加した話し合いのテーマを教えてください」という活動を行った。グループでテーマを発表している中で2種類のテーマがあることを指摘された。一つは「～について」など言い切る形のテーマ、もう一つは「～とは？」という疑問文の形のテーマである。「～について」のテーマは様々な意見を出しやすいが、意見の方向性が違う、まとめにくいなどの意見が出た。「～とは？」のテーマは意見をまとめやすいが手立てがないと意見を出しにくいという意見があった。

ここでいうテーマ＝問い立て＝イシューとは、今考えたいこと、議論すべきこと、考えるべきことである。そして「問い」とは疑問文で表現するものである。私たちが何気なく授業で使っている「問い」は疑問文であり、疑問文の種類(疑問詞)を変え、順序立てることで論理的思考を取り入れた話し合いをすることができる。つまり、テーマをつくるうえで大事なことは、疑問文でつくることである。そして、テーマ＝問い立ての「問い」を強くするためにはシンプルで明確であり、発想を促すものであり、参加者のモチベーションを刺激するものでなければならない。

「組織や集団について理解する」

例えば中学校の音楽祭を例に挙げてみる。音楽祭でいい賞を取りたい、いい合唱をしたいと考え、クラスで目標などを考えることで「思考の質」を高めると、練習をたくさんする、協力し合うなどの「行動の質」が高まる。すると賞が取れる、いい合唱ができるという「結果の質」が向上し、その結果によってクラスの間関係がよくなる。つまり「関係性の質」が最終的に高まる。その後はこのサイクルが繰り返され、集団が成長していく。集団が衰退するときにも質の低下で考えると当てはまる。このサイクルの中にある「関係性の質」と「思考の質」を向上させることが私たち教師の仕事であると言える。授業の質(思考の質)を高めるためには人間関係(関係性の質)をよくしないといけないということである。

「プロセスづくりの基本を理解する」

一つの授業の中では、結論を明確にする「ねらい」をもとに授業を組み立て、その一つ一つの授業間の順序や流れを考えていくというものである。講演では、「まるごと高田」という総合の題材で実際にプロセスデザインを行ってみた。これを行うことにより、見通しを持った授業を行うことができるようになり、何を準備するのか、どのようなねらいにするべきなのか、などを具体的に考えることができるようになる。

4 成果と課題

研修後に参加者からアンケートを記述してもらった。以下にあるように、部員がこの講演から刺激を受け、考えを深めている様子が見える。今年度は探究的な学習過程の作り方について研修を深めたが、次年度以降、実際の授業を通しての学び合いを検討していきたいと考える。

授業の作り方や、目標設定の仕方、行動修正の考え方など、総合学習だけでなく、授業作りや学級経営におけるとても大切な視点・方法を学んだ。最初に自分のテーマを決め、そして参加し、最後に学んだことをまとめ、あとは日常の行動につなげようと思う。